

25. 職場の対人葛藤と抑うつ症状の関連 —製造・販売業の男性労働者を対象とした横断調査—

園田 希望¹, 大塚 泰正², 中田 光紀³,

¹ 産業医科大学 大学院医学研究科 産業衛生学専攻

² 筑波大学 人間系 生涯発達専攻

³ 産業医科大学 産業保健学部 産業・地域看護学

目的 職場で発生する対人葛藤は労働者の抑うつ症状と関連することがわかっている。一方、両者の関連において、対人葛藤を構成する具体的な要因別に検討された報告は少ない。そこで本研究では、対人葛藤および下位項目それぞれについて、労働者の抑うつ症状との関連を調べた。

対象・方法 2012年定期健康診断時に、福岡県内の製造・販売業に従事する労働者(男性4,271名,女性870名)を対象に、基本属性(年齢,性別),生活習慣(喫煙習慣,飲酒習慣,運動習慣,睡眠時間)およびbody mass index (BMI),職業性ストレスについて質問紙調査を行った。職業性ストレス簡易調査票を用いて対人葛藤(3項目)および抑うつ症状(6項目)を測定した。対人葛藤の合計得点の各群がおおよそ同数となるよう4等分した。抑うつ症状のカットオフ値は、本項目の基となるThe Center for Epidemiologic Studies Depression Scale (CES-D)の16以上に換算した11点以上とした。最終解析対象者は、有効回答数が少ない女性を除外し、欠損値がない18-60歳の男性労働者3,849名とした。対人葛藤と抑うつ症状の関連は、多重ロジスティック回帰分析(変数増加法)により解析し、調整オッズ比(adjusted odds ratio (aOR))と95%信頼区間(confidence interval (CI))を算出した。

結果 全対象者の内、抑うつ症状ありの者は41.5%であった。まず、対人葛藤と抑うつ症状の単相関(スピアマンの順位相関係数)を求めたところ、有意な正の相関が認められた($r_s=0.358$, $P<0.001$)。次に、対人葛藤が高い者は低い者に比べ、抑うつ症状ありのaORが3.23を示した。項目別にみたaORは3.56-4.21を示し、抑うつ症状ともっとも関連が強かった項目は「部署間のうまが合わない」であった。

考察 本研究より、1)職場の対人葛藤は抑うつ症状のリスクを増大させ得ること、2)その中でも「部署間」における対人葛藤が抑うつ症状ともっとも強く関連する可能性が示唆された。

26. 禁煙による生体内酸化ストレスの低減

川崎 祐也, 李 云善, 渡邊 晋太郎, 葛西 宏, 河井 一明

産業医科大学 産業生態科学研究所 職業性腫瘍学

目的 これまでの疫学研究では、比較的大きな集団を対象とした調査で、喫煙による尿中8-ヒドロキシデオキシグアノシン(8-OHdG)量の増加が報告されている。しかし、尿中8-OHdGは生体の酸化ストレス状態を反映しており、喫煙による影響を調査する際、生活習慣の違いによる個体差を無視できない。本研究では禁煙が生体内酸化ストレスに及ぼす影響について個人レベルで明らかにすることを目的とした。

方法 尿サンプルは禁煙前、禁煙中、喫煙再開後の3期間にそれぞれ数日採取した。採取は起床時から就寝時まで2時間おきに行い、測定まで -20°C で保存した。8-OHdGの測定にはHPLC-ECD法を用いクレアチニン補正を行った。採尿日には喫煙時間、喫煙本数、食事時間、食事内容、起床および就寝時間を記録した。

結果・考察 3つの期間中の平均尿中8-OHdG量は喫煙期間に比べ禁煙することにより有意に低下し、約1ヶ月間の禁煙期間後に喫煙を再開すると有意に増加した。実験期間を通して被験者の喫煙習慣以外の生活習慣は変わっていないことから8-OHdG量の低下は禁煙によるものであると考えられる。また、喫煙期間中、喫煙前(12時採尿時)と喫煙後2,4,6時間後(14,16,18時採尿時)の尿中8-OHdG量と禁煙期間との比較では喫煙後2,4時間後に有意に高くなり、喫煙による尿中8-OHdGへの影響が短時間で認められた。個人レベルでの喫煙の健康影響評価に酸化ストレスマーカーである尿中8-OHdGが利用できることを期待したい。